

中山道：坂本西一大井宿(恵那)

大井宿 (中津川宿より2里18町)

古書では慶長8年幕府は大久保長安をして十三峠を改修して移したとあり、また大井宿は上宿あたりから移転したとの伝承もある。
町は五妙坂高札場あたりから大井橋までの6町30間東から横町、本町、堅町、茶屋町、橋場と続き6ヶ所の樹形で区切られている。
下街道との分岐の横が根追分に近く伊勢参り、善光寺参り、尾張商人などで賑わった。
古代東山道の大井駅の跡といわれ交通の要衝であった。今も往時の町並がよく残っている。



庄屋古屋家

江戸時代には商家を営み
天保元年から20年間庄屋を勤める。
本陣の長屋門移築される。



市神神社

正月7日は七日市で賑わう

本陣(林家)

母屋は昭和22年焼失、本陣門、老松、庭園が残り往時の面影を残している。
また邸内には皇女と宮降嫁の際使われた井戸、本陣の守護神である稲荷も残っている。
本陣の表門は梅鉢紋入り、蛙股の様式から江戸時代初期の建築と見られる。



関戸一里塚



宿街並み

甚平坂

木曾路を過ぎ中津川宿、大井宿あたりにくるといくつもの小高い丘を越える起伏の多い道となる。
甚平坂は距離は短いが急な坂道であった。
明治3年明治天皇巡幸のさい頂上あたりを2M近く掘り下げたという。



馬頭観音

廣久手
これより大井宿



源頼朝の家臣根津甚平を祭った神社
甚平は武勇に優れ信州桔梗が原で旅人を苦しめている怪鳥八重羽の雉を追って大井まで来て倒れる。
雉は日吉(瑞浪市)で死んだという。
境内には乗ってきた馬、連れていた犬の塚もある。また子、小次郎の供養に建てたという宝篋印塔が建っている。

根津神社



大宝2年(702)行基草創、その後廃絶、
文治3年(1187)根津甚平が再興。
永正年間に兵火、慶長2年(1597)移転
寺堂を建て禅寺(曹洞宗)とした。
この授かる「好観音」で知られ、聖武天皇も
ここで願いをかけられ誕生したという。
甚平婦人もここで子を授かったという
この寺で西行の葬儀が行われ位牌と古文書
残っている。